

ガルフストリーム発行50周年記念号！

ガルフストリーム読者の皆様、早春の候、いよいよ清栄のことと、お喜び申し上げます。

ガルフストリームは、商工会(当時はヒューストン貿易懇話会: Japanese Traders Assoc. of Houston)の広報誌(Newsletter 月報)として、1975年12月に産声を上げました。商工会の新年度が始まった2024年10号から、Volume 50 を冠し、今月号で既に5合目。今年度中に50周年記事を取りまとめるべく、以下のとおり検討を進めています。

状況によっては少し変更もあるかもしれませんが、今月号では会長からのお言葉を頂くとともに、この50年を振り返り、年表形式で主だった記事をご紹介します。この広報誌がどのように成長してきたかを見ていきたいと思います。皆さんがいつも読んでいた記事がいつ始まったのか、商工会にはこんなイベントもあったのか、などなど、興味深い発見がありそうです。単にヒューストン商工会の活動の歴史を知るだけでも、十分面白いかもしれません。

状況によっては少し変更もあるかもしれませんが、6月号では、総領事からのお言葉を始めとして、発行に関わった過去の関係者からの当時の思いを集めたり、9月号では、過去の関係者の座談会をご紹介します。これまでの発行の状況を振り返りつつ、今後の改善にも繋げたいと思います。昨年読者アンケートでも様々なご意見をいただいたところ、編集委員会で検討を進めており、既に一部のスタイル変更は始めています。

今後、本誌がどう変わっていくか、乞うご期待です！

(編集委員長 稲田徳弘)

濱田商工会会長祝辞



“ガルフストリームが変化する社会や会員のニーズに柔軟に対応し、情報を通じて会員同士をつなぎ続けてこられたことは、本誌最大の功績であり、商工会のみならず、ヒューストンの日本人コミュニティにとっても大きな財産と言えます。” (濱田会長)

このたび、ガルフストリームが記念すべき創刊50周年を迎える事ができました。

今のガルフストリームはヒューストン日本商工会の前身となるヒューストン貿易懇話会が1975年12月に手書きで作成したnewsletterを起源としています。初号発刊に当たっては、その目的や意義につき様々な議論が為されたことと想像します。その当時と今のガルフストリームの位置づけに変化はあるかもしれませんが、今も昔も会員の皆さまにとって欠かせない情報誌であることに変わりはないものと思います。ひとえにこれまで編集に携わってこられた方々の強い熱意とたゆまぬ努力によるものであり、その関係者皆さまに対し、この場をお借りしてあらためて心より敬意を表します。変化する社会や会員のニーズに柔軟に対応し、情報を通じて会員同士をつなぎ続けてこられたことは、本誌最大の功績であり、商工会のみならず、ヒューストンの日本人コミュニティにとっても大きな財産と言えると思います。

ガルフストリームがこれからも会員間、そしてローカルコミュニティとの架け橋となり、さらに多くの情報や機会を提供し続けてくれることを願ってやみません。そして、本誌がこれからもヒューストン日本商工会の発展とともに、より一層輝きを増し、多くの方々に愛される存在であることを心より期待しております。

発行責任者を務めてきた代々の商工会会長を代表し、50周年という節目を迎えられたこの機会を捉え、編集委員の皆様、これまで支えてくださった全ての読者、関係者の皆さまに、改めて深く感謝申し上げますとともに、今後の益々のご発展を祈念いたします。

(北米三菱商事 濱田哲)

ガルフストリームの歩み (編集部より)

ヒューストン日本商工会は、1967年に「ヒューストン貿易懇話会」という名称で発足しました。そして、われらの会報誌「ガルフストリーム」の前身となる「Newsletter」の創刊号は、1975年12月に門脇晶子初代事務局長による手書きの3ページ刷りで発行されました。

1970年代、会員企業の多くはダウントウンに事務所を構えていた(*)のようですが、当時、商工会事務局は Two Houston Center にある会員企業 (Marubeni America Corp.) に間借りをしていました。商工会が次第に組織化されて活動を展開するにあたり、その記録を何らかの形で残すべきではないかという事務局長の提案により、月報として始めたのがガルフストリームが誕生するきっかけとなったようです。

その後、ガルフストリームは、先代の運営陣が掲げた「外に向かって開かれた組織」「全員参加の商工会」というモットーを反映し、会員の結束力を高めるための重要な活動として位置づけられるようになりました。会報誌でありながらコミュニティ誌の役割も果たすというミッションを受けたボランティア編集委員達が、美味しいお弁当につられていそいそと編集会議に集まり、色々な話題で盛り上がりながら知恵を出し合う様子が編集後記には綴られています。

ちなみに愛称「ガルフストリーム」に改名されたのは、1988年2月号のことですが、その名前は編集委員達によるブレインストーミングで決まったそうです。ガルフストリームは、元来メキシコ湾岸流をさすようですが、流勢、流れといった語感もあり、さらに同湾流が、サードコーストともいわれる発展可能性の大きい“南”に源を發し、遠くニューファンドランド沖、すなわちイーストコーストまで影響を及ぼしていることも面白いということで決定したということです。

(Page 2)に続く)

*ガルフストリーム2022年5月号Page 8 & 9「データでみるヒューストン」参照



“商工会の記録を何かのかたちで残すべきでは、と当時の会長に提案したのが始まりでした。

事務局長がその後10年間も手書きで発行することになるとは予想だにせず(笑)。”

(門脇初代事務局長)

目次	1…ガルフ50周年記念	4…ピクニック告知	7…三水会クラブ・ヒューストン日記	10…村主章枝さん「スケートから広がる世界」②
	2…P1続き・ガルフ年表	5…ソフトボールチーム紹介	8…安全情報(総領事館より)	11…ワンモア・体にやさしい栄養
	3…会社紹介	6…古本市・あそぼーかい	9…テキサスメディカル	12…Houston Walker・フォトコンテスト告知等